

写真部門

「岩手芸術祭のあゆみ」より

編集者 佐々木秀雄

熊谷昭之輔

写真部門の概要

第1回の岩手県総合芸術祭は昭和22年に発足しているが写真部門としては第3回目の昭和24年に参加の記録がある。「菜園全日本写真連盟岩手支部」とあるので、写真展はその全写連が主体となって開催したと思われる。当時はカメラ店が写真の指導的役割を果たし、カメラクラブを結成し活動していた。全写連は朝日新聞主催のカメラクラブであった。その後、ほぼ20年を経て、昭和42年（1967年）県内写壇の前進と発展のために、県内に広くある各写真クラブ及びアマチュア作家の総括機関設立の必要性が話題となっていた。そこで昭和41年11月28日に、岩手県写真連盟発足協議会が設立された。翌年の42年1月22日に設立総会が開かれて岩手県写真連盟が発足した。それが写真部門とし芸術祭に関わることになった。初代会長には吉田利男氏を選ばれた。現在は四代目の柏原悌一氏が会長を務め、会員は35クラブ460名の構成で、芸術祭の運営を一つの大きな事業として取り組んでいる。

参加にいたる経緯

写真部門としての芸術祭参加は第3回目の昭和24年に肴町の松屋画廊で開かれた。第一部人物、第二部風景、第三部営業写真となっており応募点数288点のうち第一部37点、第二部38点、第三部14点が入選した。しかし、資料によればこの後、昭和30年に岩手日報社主催で岩手芸術祭

写真展として芸術祭に参加したとある。翌昭和31年には「今年からは一般公募による審査制をとり、毎年継続して県写真愛好者の最高の発表機会とするものである。」とあるので実質写真部門の芸術祭参加は昭和30年の第9回からとするのが妥当であろう。この時点では岩手日報社が写真部門の取りまとめに当たったことが伺える。

事業の沿革

芸術祭写真部門の運営に当たったのは、昭和42年に岩手県写真連盟が設立されてからであり、岩手県写真愛好者の地方のクラブを会員にした県下統一の連合体として画期的な組織として出発した。

昭和42年（第21回岩手芸術祭）

'67 会長 吉田利夫

岩手県写真連盟設立される。初代会長吉田利男、副会長に小野智保、西島達也、事務局長は柏原悌一として発足した。監事は中村宏、葉山純、事務局は岩淵晃行、太田寛、石母田四郎、顧問は氏家正時、川代鶴治、藤村富蔵の顔ぶれであった。加盟クラブは18、個人会員5名、会員数は362名であった。連盟として初めての芸術祭の運営に当たる。出品作品は全部展示するとの方針を決めた。出品作品は186点、審査員は、氏家正時（岩手日報写真部長）、藤村富蔵（岩手放送美術制作部長）、吉田利男の三氏であった。

昭和43年（第22回岩手芸術祭）

'68 二代会長 小野智保

岩手県写真連盟吉田利男会長から辞任申し入れがあり、会長には新しく小野智保が二代目会長として、選任された。副会長には西島達也と沢野耕一郎が任命された。事務局長は柏原悌一が引き続き務めた。事務局